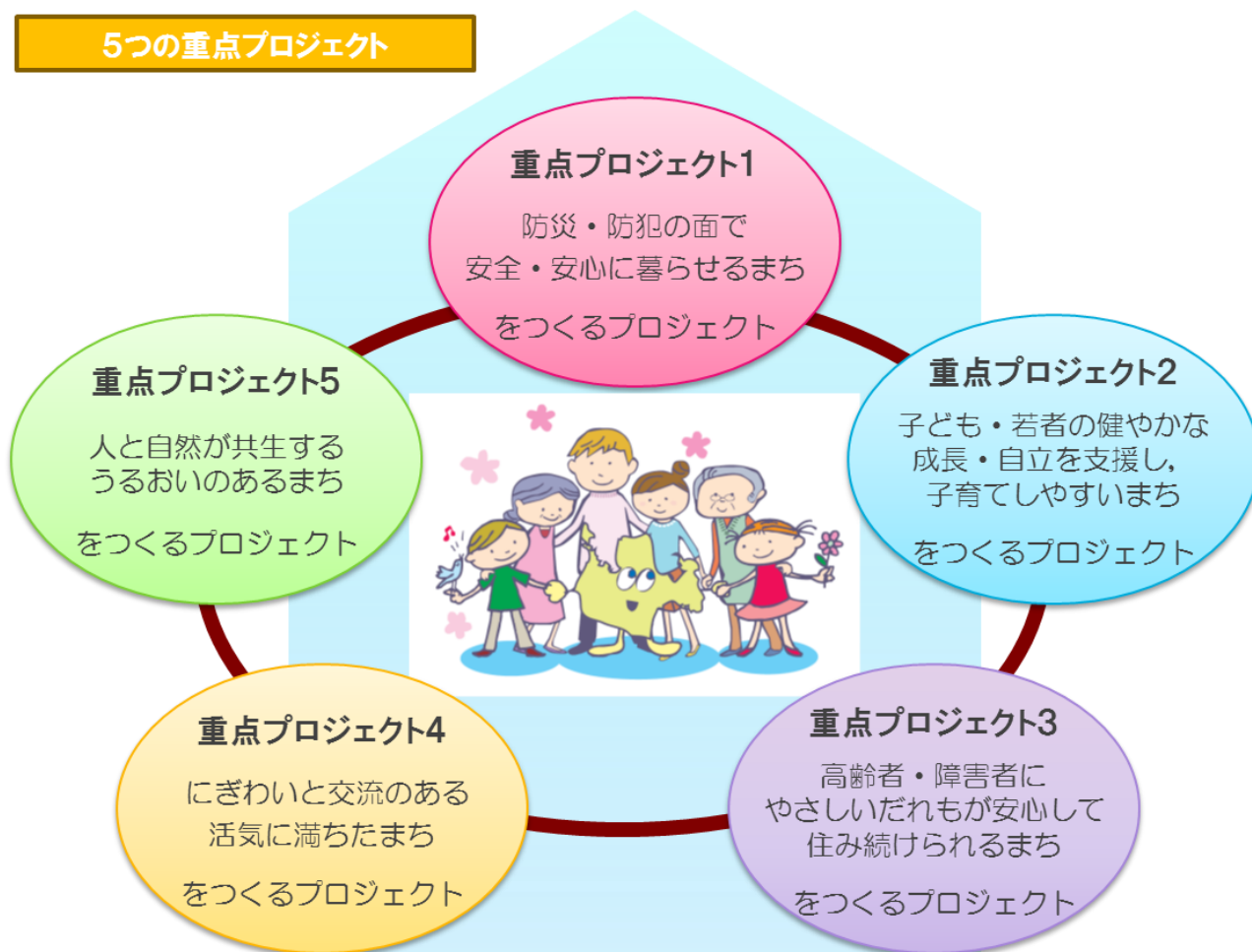


第2節 5つの重点プロジェクトの取組

まちの将来像「みんなが笑顔でつながる・ぬくもりと輝きのまち調布」を実現するため、次の5つの重点プロジェクトと市政経営における2つの基本的な考え方により総合的かつ計画的に推進していきます。また、2つのアクションにより、重点プロジェクトを基軸とする施策全体を効果的に推進していきます。

まちの将来像「みんなが笑顔でつながる・ぬくもりと輝きのまち調布」

5つの重点プロジェクト



2つのアクション

アクション1

横断的連携による施策の推進

重点プロジェクトをはじめとする横断的に取り組むべき主要事業や課題について、多様な主体との連携や調整の充実を図りながら取組を進める

アクション2

調布のまちの魅力発信

調布のまちの魅力を高め、その魅力を多様な媒体を活用し市内外に積極的に発信するとともに、市民の調布のまちに対する愛着と誇りを高め、重点プロジェクトを基軸とした施策の推進、都市としての付加価値の向上につなげる

市政経営の2つの基本的考え方

参加と協働のまちづくり

～人と人がつながる市民が主役のまち～

持続可能な市政経営

～質の高い行政サービスの提供～

重点プロジェクト1 防災・防犯の面で

これまでの主な取組状況

防災・防犯

H20 2008 H21 2009 H22 2010 H23 2011 H24 2012 H25 2013 H26 2014 H27 2015 H28 2016 H29 2017 H30 2018

- 防災市民組織の結成・育成支援
(平成14(2002)年度末：67団体⇒平成26(2014)年度末：99団体⇒平成30(2018)年度末見込み：124団体)



- 避難行動要支援者避難支援プラン※に基づく要支援者支援に係る協定締結
(平成26(2014)年度末：9団体
⇒平成30(2018)年度末見込み：32団体)
※平成28(2016)年度まで災害時要援護者避難支援プラン

- 災害時医療救護体制の充実に向けた取組（三師会や医療機関等との連携）（平成25(2013)年度から緊急救護所設置訓練の実施）



- 震災時対応シミュレーション策定（平成23(2011)年10月）
- 4月の第4土曜日を「調布市防災教育の日」に指定（平成24(2012)年2月）
(平成30(2018)年度まで7回実施)
(平成24(2012)年度から毎年市立小・中学校で全校実施 参加者約3万人)

- 災害時相互応援協定による広域連携
(平成28(2016)年1月：富山県富山市、岐阜県岐阜市、平成28(2016)年3月：岩手県遠野市)

- 通学路（平成30(2018)年度までに小学校全校の周辺に100台設置）や商店街への防犯カメラ設置

- 各種パトロール（青色防犯パトロール、子ども安全・安心パトロール、夜間安全・安心パトロール）の実施
(刑法犯発生件数：平成14(2002)年4704件⇒平成30(2018)年1721件)
(治安の面で安心して暮らせると感じている市民の割合：平成24(2012)年度78.3%⇒平成30(2018)年度83.3%)

- 特殊詐欺対策の防止強化
高齢者約1200世帯に自動通話録音機設置
(平成27(2015)年度～平成30(2018)年度見込み)

- NPO法人と災害時における無人航空機を活用した支援活動等に関する協定を締結：
平成29(2017)年3月・2市（調布市・狛江市）締結⇒平成29(2017)年7月・6市締結
⇒平成30(2018)年4月・20市締結

- 学校施設の耐震化完了（平成22(2010)年度）、他の公共施設：平成23(2011)年度に耐震化完了
- 市庁舎免震改修工事の実施(平成30(2018)年6月～令和2(2020)年4月予定)
- 橋りょうの耐震化（令和2(2020)年度完了目標）、下水道施設の地震対策（管路の補強工事）の推進

- 避難所の防災機能強化（平成30(2018)年度末見込み：マンホールトイレ20校、だれでもトイレ20校、シャワー室16校、非常用電源設備17校）

安全・安心に暮らせるまちをつくるプロジェクト

目指すまちの姿

○自助・共助・公助の基本的な考え方の下、地域や関係機関等との協働による地域の防災体制づくりや、犯罪が発生しにくい環境整備により地域の防災・防犯力の向上が図られています。

○近年の地震や風水害、過去の教訓を踏まえ、自助・共助・公助の基本的考え方下、ソフト・ハード両面から防災・減災対策が進められています。

○地域に根差した防災活動の主体となる防災市民組織が市内各地域で組織され、自助の意識の一層の醸成が図られています。

○市民が安全に安心して暮らせるよう、犯罪の起こりにくい環境づくりが進んでいます。



○延焼遮断帯の形成、緊急輸送道路の機能確保、住宅の耐震化、下水道の耐震化など、市民が安心して暮らすことができる災害に強い都市基盤づくりが進んでいます。

○特定緊急輸送道路の沿道建築物の耐震化が進み、震災時の復旧・復興の大動脈となる輸送機能の確保が図られています。

○下水道施設の耐震化や老朽化した管路の機能維持、更新などにより災害時の安全性の確保が図られています。



令和4（2022）年度の到達点

指標	基準値	目標値
調布市の地震などの災害対策に満足している市民の割合	59.9% (平成30（2018）年度)	70.0% (令和4（2022）年度)
治安の面で自分の住んでいる地域が安心して暮らせると感じている市民の割合	83.3% (平成30（2018）年度)	90.0% (令和4（2022）年度)

重点プロジェクト事業（9事業）

～ 地域の防災・防犯力を高める ～

- 防災市民組織の育成
- 調布市避難行動要支援者避難支援プランの推進
- 消防団の対応能力の向上
- 防災備蓄品の確保・充実
- 命の教育活動の推進（「調布市防災教育の日」）
- 災害情報システムの維持管理・充実
- 犯罪抑止対策の推進

～ 災害に強い都市基盤をつくる ～

- 特定緊急輸送道路沿道建築物耐震化促進事業
- 下水道施設の機能維持

重点プロジェクト2 子ども・若者の健やかな成長・

これまでの主な取組状況

教育・子育て

H20
2008
H21
2009
H22
2010
H23
2011
H24
2012
H25
2013
H26
2014
H27
2015
H28
2016
H29
2017
H30
2018

■ 保育園待機児童解消に向けた認可保育園の定員拡大（平成14(2002)年からの16年間で約3500人定員拡大）

2008 160人増	2009 84人増	2010 127人増	2011 69人増	2012 441人増	2013 19人増	2014 438人増	2015 466人増	2016 389人増	2017 811人増
---------------	--------------	---------------	--------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------

■ 1小学校区1学童クラブの設置完了（平成21(2009)年4月現在：25箇所、平成29(2017)年度末現在：38箇所）
 ■ 全小学校にユーフォー（放課後遊び場事業）を設置（平成24(2012)年度）
 ユーフォーと学童クラブの連携による一体的な運営の開始（平成27(2015)年度） ■

■ 障害児学童クラブの開設に向けた取組
 （令和元(2019)年度：開設準備）

■ 病児・病後児保育（平成23(2011)年4月：1箇所増設、平成29(2017)年度末現在：2箇所）

<乳幼児医療費助成制度（1994年1月から実施）>

■ 乳幼児医療費の無料化（多摩各市に先駆けて平成15(2003)年10月から実施）

<義務教育就学児医療費助成制度（平成19(2007)年10月から実施）>

市民税非課税世帯を対象に通院時自己負担額の助成（平成28(2016)年10月） ■

小学校3年生までを対象に保護者の所得制限を撤廃（平成29(2017)年10月） ■

■ 子ども・若者総合支援事業
 「ここあ」の開始
 （平成27(2015)年10月）

■ 子ども・若者支援
 地域協議会の設置
 （平成29(2017)年11月）

■ 妊娠期から子育てを応援
 する「ゆりかご調布」事業
 を開始
 （平成28(2016)年9月）

■ 公立小学校全校に
 校内通級教室※設置
 （平成27(2015)年度）

※平成29(2017)年度まで特別支援教室

■ 公立小・中学校全普通教室への空調設備の設置（平成23(2011)年度）
 特別教室の空調整備（平成30(2018)年度完了）



自立を支援し、子育てしやすいまちをつくるプロジェクト

目指すまちの姿

○安心して子どもを産み育てられる環境づくりが進んでいます。

○多様なニーズに対応した保育サービスが提供されるとともに、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の充実が図られています。

○すべての子ども・若者が家庭事情等により、進路をあきらめることのないよう、また、社会の一員として自立した生活をおくることができるよう、地域で支援する環境づくりが進んでいます。

○子ども・若者をめぐる複雑化・深刻化する諸問題の解決につなげていく体制づくりが進んでいます。

○次代を担う子どもたちが生きる力を身に付け、夢を持って健やかに育つ環境づくりが進んでいます。

○良好な学習環境が整備され、子どもたちが、基礎的な学力や社会性、体力を身に付けながら、主体的に考え、生きる力を育むための機会が提供されています。



令和4（2022）年度の到達点

指標	基準値	目標値
子育て支援サービスに満足している市民の割合	59.4% (平成30(2018)年度)	70.0% (令和4(2022)年度)
就労などの面で困難を抱える若者への支援に満足している市民の割合	50.7% (平成30(2018)年度)	60.0% (令和4(2022)年度)
小・中学校の教育に満足している市民の割合	62.5% (平成30(2018)年度)	65.0% (令和4(2022)年度)

重点プロジェクト事業（7事業）

～子育て環境を充実させる～

- 待機児童対策の推進
- 学童クラブ施設の整備
- 出産・子育て応援事業

～子ども・若者の健やかな成長と自立を支える～

- 子ども・若者への支援

～学校教育環境を充実させる～

- 小・中学校施設の整備
- 地域人材等を活用した教育の充実
- 特別支援教育の推進

重点プロジェクト3 高齢者・障害者にやさしい

これまでの主な取組実績

高齢者・障害者福祉・地域福祉・健康

H20
2008

H21
2009

H22
2010

H23
2011

H24
2012

H25
2013

H26
2014

H27
2015

H28
2016

H29
2017

H30
2018

■特別養護老人ホーム（かしわ園：平成23(2011)年4月開設 120床，神代の杜：平成24(2012)年9月開設 29床，らくえん深大寺：平成26(2014)年5月開設 70床 【平成30(2018)年度末見込み：8箇所588床】）

■地域密着型サービス施設（平成30(2018)年度末見込み：7種別39事業所）

■地域包括支援センター10箇所設置（平成18(2006)年度に在宅介護支援センター(9箇所)から移行，平成25(2013)年1月に1箇所増設）

■見守りネットワーク「みまもつ」(平成16(2004)年度から事業開始，平成29(2017)年度末現在54団体と事業協定締結)

■地域支え合い推進員(生活支援コーディネーター)の配置(平成27(2015)年4月：2名配置)

■介護予防・日常生活支援総合事業の開始(平成28(2016)年10月)

■子ども発達センター開設(平成21(2009)年10月)

■こころの健康支援センター-就労支援室ライズの開設（平成23(2011)年4月）

■希望の家深大寺開設（平成25(2013)年度）

■重度重複障害者グループホームみつばち開設(平成26(2014)年5月) ■深大寺みつばち開設(平成29(2017)年2月)

■ちょうふだぞう・すまいる分室 国領に移転(平成29(2017)年2月)

■調布市バリアフリーハンドブック作成(平成30(2018)年3月)

■福祉人材育成センター開設（平成27(2015)年度）

■ひだまりサロンの活動（平成23(2011)年度末45箇所，平成30(2018)年度末見込み110箇所）

■地域福祉コーディネーターの配置（平成25(2013)年度：2人配置，平成27(2015)年度：2人増，平成30(2018)年度2人増，計6人配置）

■国保ヘルスアップ事業の開始（平成25(2013)年度）

■ハローワーク府中の就労支援窓口「ちょうふ就職サポート」の開設（平成26(2014)年8月）

■生活困窮者自立相談支援事業の開始，調布ライフサポートの開設(平成27(2015)年4月)

■がん予防対策の充実（がん啓発・がん検診に向けた包括連携協定締結（平成22(2010)年2月），新たな胃がん検査（A B C検診）の実施（平成28(2016)年））

■調布っ子食育マイスターの取組開始（平成22(2010)年度，平成29(2017)年度末現在：累計認定者数243人）

■食物アレルギー対策の推進（食物アレルギー対応マニュアル作成（平成26(2014)年4月））



だれもが安心して住み続けられるまちをつくるプロジェクト

目指すまちの姿

○高齢者が、住み慣れた地域で安心して生きがいをもって暮らすことができるよう、高齢者を支える取組が進んでいます。

○高齢者ができる限り住み慣れた地域での日常生活を継続できるよう、適切な医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が図られています。



○障害者が、地域で安心して自立した生活をおくれるよう、障害者を支える取組が進んでいます。

○障害者への理解が進んでいるとともに、障害者のニーズやライフステージに応じた様々な支援体制の構築が図られています。

○地域でともに認め合い、助け合い、支え合う、地域福祉の充実が図られています。

○地域で複合化・複雑化する様々な課題を抱える高齢者や障害者に対し、必要な支援や課題解決につなげていく体制づくりが図られています。

○専門性を有する福祉人材が、地域住民とともに様々な福祉活動を展開しています。



令和4（2022）年度の到達点

指標	基準値	目標値
高齢者の福祉に満足している市民の割合	61.8% (平成30（2018）年度)	65.0% (令和4（2022）年度)
障害者の福祉に満足している市民の割合	59.8% (平成30（2018）年度)	65.0% (令和4（2022）年度)
地域交流の場に参加・協力したい（している）市民の割合	33.7% (平成30（2018）年度)	40.0% (令和4（2022）年度)

重点プロジェクト事業（6事業）

～高齢者の暮らしを支える～

●地域包括支援センターの充実

●介護予防・日常生活支援総合事業の展開

～地域福祉を推進する～

●地域福祉コーディネーター事業の推進

●福祉人材育成事業の推進

～障害者の暮らしを支える～

●障害者の就労支援

●障害児・者医療的ケア支援事業

重点プロジェクト4 にぎわいと交流のある

これまでの主な取組状況

まちづくり(中心市街地ほか)



都市構造の変化

■京王線連続立体交差事業着手（平成16(2004)年9月） ■平成24(2012)年8月：地下化切換え⇒18の踏切が除却

■駅前広場の整備
 ⇒布田駅前広場の整備：平成27(2015)年3月交通開放，平成29(2017)年6月上屋整備完了
 ⇒国領駅前広場の整備：平成28(2016)年3月交通開放，平成30(2018)年1月上屋整備完了
 ⇒調布駅前広場の整備：平成28(2016)年度～北側から段階的整備（平成26(2014)年10月事業認可取得）



■鉄道敷地の段階的整備の推進（平成27(2015)年度～）
 ⇒平成28(2016)年3月：鉄道敷地整備計画を策定し，平成27(2015)年度から令和6(2024)年度の10年間で段階的整備を推進

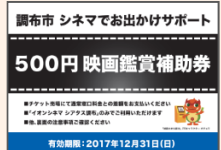
■市街地再開発事業
 ・国領駅南地区（平成12(2000)年7月竣工），国領駅北地区（平成16(2004)年9月竣工），調布駅南第1地区（平成19(2007)年10月竣工），調布駅南口東地区（平成27(2015)年3月竣工），調布駅北第1A地区（平成27(2015)年5月竣工），調布駅北第1B地区（平成27(2015)年9月竣工）
 ■土地区画整理事業
 ・布田駅南土地区画整理事業（平成26(2014)年度換地処分），国領北浦土地区画整理事業（平成26(2014)年度換地処分）

商業的な一大転換期

■中心市街地活性化事業の実施
 ・商店街イベント
 ・デカ盛りウォークラリー（平成25(2013)年度～）
 ・調布まちゼミ（平成24(2012)年度～）
 ・旧道さんぽ（平成25(2013)年度～）
 ・スクラッチカード事業など商工会と連携したバイ調布運動の取組
 ・Oh！！辛チャレンジ（平成26(2014)年度～）
 ・調布駅前飲食店マップ「エキモリマップ」作成支援（平成29(2017)年度）など

■トリエ京王調布開業（平成29(2017)年9月）
 ・シネマ・コンプレックスを含むトリエ京王調布の開業と連動した中心市街地の活性化（調布100日まつりの開催（平成29(2017)年9月～12月），「映画のまち調布」の取組展開）
 ⇒京王電鉄による複合商業施設の開発計画公表：平成25(2013)年5月
 ⇒京王電鉄によるシネマコンプレックスを含む商業施設(3棟)の計画案公表：平成27(2015)年1月
 ⇒京王電鉄によるビックカメラ出店を含む商業施設A・B・C3館（約70店舗）の開発計画公表：平成28(2016)年10月
 ⇒京王電鉄による「トリエ京王調布」開業公表：平成29(2017)年4月

※調布駅乗降客数
 (2017⇒2018 約6,000人増)
 (平成29(2017)年度：11万9,639人
 平成30(2018)年度：12万5,624人)



■武蔵野の森総合スポーツプラザの開業（東京都）（平成29(2017)年11月）
 ⇒隣接の味の素スタジアム（東京スタジアム）とともに東京2020大会の競技会場

活気に満ちたまちをつくるプロジェクト

目指すまちの姿

○利便性と快適性を兼ね備えたにぎわいと交流のある都市空間の創出，様々な都市機能の集積により魅力ある市街地の形成が図られています。

○交通利便性向上に加え，環境空間としての交流機能や景観形成機能などの広場空間を兼ね備えた駅前広場の整備が進められています。

○調布・布田・国領3駅の駅前広場と各駅をつなぐ鉄道敷地の連続した空間の有効活用により，にぎわいや交流，うるおい，やすらぎのある都市空間の整備が進められています。

○駅周辺をはじめ面的整備手法を活用した土地の有効・高度利用により，地域の特性にふさわしい都市機能の集積，計画的なまちづくりが進められています。



○まちの回遊性を高め，歩いて楽しいまちづくりが形成されているとともに，映画やスポーツなどの地域資源を生かし，まちの活性化が図られています。

○産業振興と都市基盤の整備が一体となった魅力的な中心市街地が形成されています。

○安全で快適な歩行者空間ネットワークの形成により，まちの回遊性の向上が図られているとともに，映画・映像関連企業との連携や，スポーツ，芸術・文化などの地域資源の活用により，まちの活性化が図られています。



映画のまち調布

令和4（2022）年度の到達点

指標	基準値	目標値
住みやすいと感じている市民の割合	93.0% (平成30(2018)年度)	95.0% (令和4(2022)年度)
中心市街地が魅力的であると感じている市民の割合	67.8% (平成30(2018)年度)	80.0% (令和4(2022)年度)
自宅などから目的地まで円滑に移動できる道路ネットワークが形成されていると感じている市民の割合	72.0% (平成30(2018)年度)	75.0% (令和4(2022)年度)

重点プロジェクト事業（9事業）

～まちの活力を生み出す都市をつくる～

- 駅前広場の整備
- 道路網計画に基づく計画的な道路ネットワークの形成
- 鉄道敷地の整備
- 自転車等駐車場の整備・有料化
- 中心市街地における区画道路等の整備

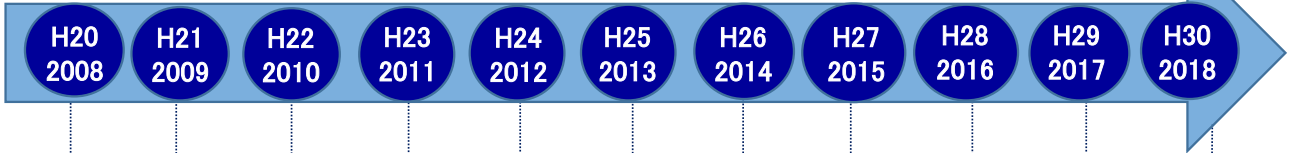
～にぎわい・交流のあるまちをつくる～

- 商店街活性化の推進
- 「映画のまち調布」の推進
- 中小企業・小規模事業者の支援
- 東京2020大会等を契機としたスポーツ振興による多面的効果の創出

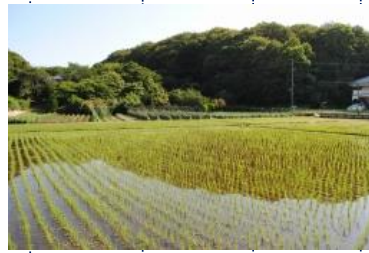
重点プロジェクト5 人と自然が共生する

これまでの主な取組状況

うるおい(環境・景観)



■ 深大寺・佐須地域の里山，水辺環境の保全・活用



■ 佐須農の家の開設
(平成28(2016)年6月)

■ 深大寺・佐須地域内
緑地の公有化
(平成29(2017)年度)



■ 特別緑地保全地区等を活用した崖線緑地の保全
⇒平成25(2013)年度(仙川崖線，緑ヶ丘みんなの森)
⇒平成28(2016)年度国分寺崖線(深大寺元町)

■ 景観行政団体に移行(平成25(2013)年6月1日)

■ 市民との協働による崖線樹林地の保全(市内5箇所の崖線樹林地で市民グループが保全活動)

■ 多摩川自然情報館の開設(平成22(2010)年7月)

■ クリーンプラザふじみ稼働(平成25(2013)年4月)



■ 地球温暖化対策の推進

⇒再生可能エネルギー利用促進

(公共施設の屋根貸しによる太陽光発電事業：平成26(2014)年度から市内34公共施設で実施)

⇒本庁舎とたづくりでESCO事業の導入(平成18(2006)年度～平成22(2010)年度)，ESCO事業表彰金賞受賞(平成20(2008)年度)
導入前と比べ，本庁舎25%程度，たづくり13%程度の省エネ効果

■ 深大寺地区のまちづくりの推進

⇒特別用途地区：深大寺通り沿道観光関連産業保護育成地区

(平成18(2006)年4月)

⇒深大寺周辺地区を「街づくり推進地区」に指定

(平成24(2012)年7月)

⇒深大寺通り周辺地区街づくり協定

(平成24(2012)年8月，深大寺通り街づくり協議会)

⇒調布市深大寺地区街なみ整備基本計画の策定

(平成25(2013)年度～令和6(2024)年度)



うるおいのあるまちをつくるプロジェクト

目指すまちの姿

○ふるさと調布の大切な財産である緑と水辺環境が守り育てられ、次代にうるおいのあるまちが継承されています。

- 多様な主体が連携、協働して、水と緑の保全・創出や地球環境に配慮した取組が広がり、自然環境が保全された豊かな都市が形成されています。
- 調布市の貴重な地域環境資源である深大寺・佐須地域の保全・活用により、良好な自然環境や里山の景観が維持されています。
- 貴重な緑地空間としての都市農地の保全・活用が図られ、災害時における防災空間としての役割や、うるおいとやすらぎをもたらす住環境の形成など、多面的機能が確保されています。



○地域固有の景観資源の価値を市民と共有し、地区の特性を生かした景観まちづくりの取組が進められています。

- 景観法を活用した景観まちづくりの推進により、地域の特性に応じた景観のルールづくりの取組が広がり、調布らしい魅力ある景観形成が図られています。
- 調布市の代表的な観光スポットである深大寺地区は、地域との連携を図りながら、街なみ景観の維持・向上が図られ、武蔵野の自然と歴史・文化が継承された景観形成が図られています。



令和4（2022）年度の到達点

指標	基準値	目標値
緑の保全や自然環境に満足している市民の割合	68.5% (平成30(2018)年度)	70.0% (令和4(2022)年度)
市内に優れた景観があると感じている市民の割合	82.5% (平成30(2018)年度)	90.0% (令和4(2022)年度)

重点プロジェクト事業（6事業）

～ 豊かな水と緑を大切に守り生かす ～

- 公園・緑地、崖線樹林地の保全
- 公園・緑地等の整備
- 深大寺・佐須地域の里山、水辺環境の保全・活用
- 都市農地の保全・活用

～ 良好な景観を創出する ～

- 景観計画・景観条例の運用
- 深大寺地区におけるまちづくりの推進

